

RF マウントを採用し通信機能を拡充した「CINE-SERVO レンズ」を発売  
新デジタルドライブユニット搭載で運用性と機能性を向上

キヤノンは、EF/RF シネマレンズ「CINE-SERVO レンズ<sup>※1</sup>」シリーズの新製品として、“CN7×17 KAS T/R1 (RF マウント)” および “CN7×17 KAS T/P1 (PL マウント)” を 2024 年 10 月上旬に発売します。



CN7×17 KAS T/R1  
\*ドライブユニット装着時



CN7×17 KAS T/P1  
\*ドライブユニット非装着時

“CN7×17 KAS T/R1”は、「CINE-SERVO レンズ」シリーズとして初となる RF マウントを、“CN7×17 KAS T/P1”は、映像業界で広く使用されている PL マウントを採用したシネマレンズです。従来製品「CN7x17 KAS S」（2014 年 8 月発売）から 4K・8K カメラ対応の高い光学性能などの特長を継承しつつ、各マウントによる通信機能を拡充したほか新デジタルドライブユニット「e-Xs V」を搭載することで運用性と機能性が向上しています。スポーツなどのライブ中継や映画などの映像制作におけるリモート撮影やバーチャルプロダクションといった撮影手法の拡がりや、ワークフローの効率化など多様なニーズに応えます。

■ RF マウント採用でデジタルシネマカメラとの通信機能を拡充した“CN7×17 KAS T/R1”

RF マウントの通信プロトコルに対応し、「EOS C400」（2024 年 9 月上旬発売予定）と「EOS C70」（2020 年 11 月発売）、「EOS R5 C」（2022 年 3 月発売）と組み合わせることで<sup>※2</sup>、従来製品同様、倍率色収差補正・周辺光量補正・デュアルピクセルフォーカスガイドがカメラ側で行えるほか、新たに歪曲収差補正にも対応します。また、バーチャルプロダクションに適したレンズメタデータが新たに出力可能となり、「EOS C400」と組み合わせることで、リアルタイムおよびポストプロダクションにおいて高精度な CG 合成処理をサポートします。

■ 新デジタルドライブユニット「e-Xs V」搭載で運用性と機能性を向上

新デジタルドライブユニット「e-Xs V」を「CINE-SERVO レンズ」として初搭載しています。フォーカスとアイリスの高速化により、スポーツ中継などで素早く動く被写体を撮影する際にもカメラオペレーターが意図した通りの撮影が可能です。また、フォーカス時に生じる画角変動に対して、光学設計による抑制に加えて、ズームと連動して精密に自動補正するフォーカスブリージング補正機能を搭載しています。さらに、汎用性の高い USB Type-C 端子の搭載により、USB メモリからのレンズ設定データの読み取り／書き込みや、ユーザー自身によるファームウェアの更新ができます。

■ 放送・シネマ両撮影スタイルで快適な撮影が可能

デジタルドライブユニットを活用してサーボ操作を行う放送スタイルでの運用だけでなく、フルマニュアルでの操作を主としたシネマスタイル撮影にも適した機能やデザインを備えています。また、放送用カメラシステムの通信規格である「12pin シリアル通信」と、“CN7×17 KAS T/P1”では映像制作業界で広く採用されている Cooke 社の「/i Technology」に加えて、ZEISS 社の「eXtended Data<sup>※3</sup>」に対応します。撮影時のさまざまなレンズ情報をマウント経由でリアルタイムに外部出力できることで、撮影および編集の効率化を図ります。

※1. 大判センサーを搭載したカメラに対応するドライブユニットを標準装備したレンズの総称。

※2. 「EOS C70」と「EOS R5 C」は 2024 年下期に配信予定のファームウェアへ更新を行うことで対応可能。「EOS R5 C」は「VIDEO モード」時のみの性能保証。

※3. 「マウントアダプター PL-RF」（2024 年 9 月上旬発売予定）を用いて装着した場合は非対応です。

製品名	希望小売価格（税別）	発売日
CN7×17 KAS T/R1	オープン価格	2024 年 10 月上旬
CN7×17 KAS T/P1		

- 
- 一般の方のお問合せ先 : キヤノンお客様センター 0570-07-0032
  - CINEMA EOS SYSTEM ホームページ : [canon.jp/cinema-eos](https://canon.jp/cinema-eos)

## 〈主な特長〉

### 1) RF マウント採用でデジタルシネマカメラとの通信機能を拡充した“CN7×17 KAS T/R1”

- 「CINE-SERVO レンズ」シリーズとしては初となる RF マウントを採用したシネマレンズ。
- RF マウントを採用したデジタルシネマカメラ「EOS C400」に対応。「EOS C70」（2020 年 11 月発売）、「EOS R5 C」（2022 年 3 月発売）は年内に配信予定のファームウェアへ更新を行うことで対応可能。RF マウントの通信プロトコルに対応し、対象カメラで倍率色収差補正・周辺光量補正・デュアルピクセルフォーカスガイド等従来製品同等の機能を使用できるほか、歪曲収差補正にも新規に対応。
- バーチャルプロダクションに必要なレンズメタデータが新たに出力可能。「EOS C400」と組み合わせて使用することで、フレーム毎にメタデータを出力でき、CINEMA EOS SYSTEM として高精度な CG 合成処理をサポート。

### 2) 新デジタルドライブユニット「e-Xs V」搭載で運用性と機能性を向上

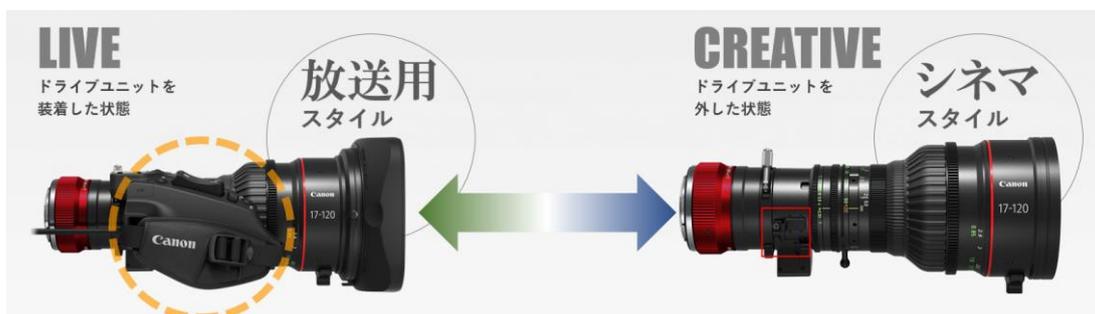
- フォーカスとアイリスを高速化した新デジタルドライブユニット「e-Xs V」を「CINE-SERVO レンズ」として初搭載。素早く動く被写体でも瞬間を逃さずカメラオペレーターの意図した通りの高品質な映像が撮影可能。
- フォーカス時に生じる画角変動を、光学設計による抑制に加えて、ズームと連動して精密に自動補正するフォーカスプリージング補正機能を搭載。
- デジタルドライブユニット天面のディスプレイからデジタル機能の設定、調整、操作が可能。視認性を向上させ、自然な姿勢でのディスプレイ操作を実現。
- USB Type-C 端子を搭載。USB メモリーを通したレンズ設定データの読み取り／書き込みやユーザー自身によるファームウェアの更新が可能。また、各レンズの固有情報やサービスログが USB メモリーへ出力可能なためサービスセンターへの問合せ時に活用可能。
- 20pin 端子搭載により、バーチャルプロダクションやリモート撮影に対応。高分解能 16bit 絶対値エンコーダーにより、高精度な位置情報の検出ができ、撮影被写体と背景映像の仮想空間を合成する際のキャリブレーションが容易。20pin 端子を 3 箇所に備えることでフォーカス／ズームコントローラーの両方をつないだ場合でもバーチャルシステム用端子を確保することが可能。



新デジタルドライブユニット「e-Xs V」の天面図

### 3) 放送・シネマ両撮影スタイルで快適な撮影が可能

- デジタルドライブユニットを活用してサーボ操作を行う放送スタイルでの運用だけでなく、フルマニュアルでの操作を主としたシネマスタイル撮影にも適した設計。
- 放送用カメラシステムの通信規格「12pin シリアル通信」に対応。
- “CN7×17 KAS T/P1”では、映像制作業界で広く採用されている Cooke 社の通信規格「/i Technology」に加え、ZEISS 社の「eXtended Data」に対応。
- デジタルデマンドなどの放送用アクセサリーのほか、シネマ業界標準とされている主要な電動駆動系アクセサリーの装着も可能。



#### 4) 4K・8K カメラに対応する高い光学性能とシネマティックな映像美

- 17mm から 120mm までの汎用性の高い焦点距離をカバーする、高倍率 7 倍ズーム。
- キヤノンの光学技術を結集し、ズーム全域で画面中心から周辺まで 4K・8K カメラに対応する高い解像度とコントラストを達成。
- スーパー35mm センサー対応により、浅い被写界深度で印象的な映像撮影を実現。Φ31.4mm のイメージサイズをカバー。
- 11 枚の絞り羽根の採用により、円形に近い自然なボケ表現や柔らかな映像表現が可能。
- シリーズ共通で統一された暖色系のカラーバランスで、被写体の質感描写を実現すると同時に、ポストプロダクションの手間を低減。
- フォーカスブリージングを抑制する光学設計で、マニュアル操作時も安定したフレーミングでの撮影が可能。

#### 〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://canon.jp/business/solution/pro-img-sys/cinema-eos/lineup/ces-lens/cn7-17rf>

#### 〈ご参考〉

#### 1) 「Cine Gear Expo」への出展

2024 年 6 月 6 日（木）から 9 日（日）まで、米国・ロサンゼルスで開催される映画制作機器の展示会「Cine Gear Expo」のキヤノンブースにおいて、本製品を展示する予定です。

#### 2) バーチャルプロダクション対応の強化

近年、カーボンニュートラルの実現や労働形態の適正化など、企業や業界としての社会貢献の観点から、映像制作や報道・ライブ制作の両分野で導入が進むバーチャルプロダクションへの対応を強化します。“CN7x17 KAS T/R1”の発売に合わせ、RF Prime シリーズ 7 機種（2024 年 1 月～4 月発売）も、ファームウェアの無償提供を開始します。「EOS C400」と組み合わせることで、“CN7x17 KAS T/R1”と同じく、RF マウントの高速通信により、バーチャルプロダクションに適したメタデータの出力に対応します。

#### 3) シネマレンズの市場動向

浅い被写界深度で、より豊かな映像描写が魅力の大判センサー搭載カメラが映像制作において普及しています。映画だけでなく、スポーツイベント、ドラマ、テレビ CM などの撮影現場でも広がりつつあり、これらのカメラに対応する高い光学性能を持つレンズへのニーズがこれまで以上に高まっています。また、撮影時のカメラ・レンズ情報をポストプロダクションなどに活用するワークフローも広がってきており、効率的な映像制作をサポートするレンズへのニーズが高まっています。（キヤノン調べ）

#### 4) EF/RF シネマレンズのラインアップ

キヤノンは、2011年11月にCINEMA EOS SYSTEMを発表して以来、CINE-SERVO レンズや FLEX ZOOM レンズなどのシリーズを加えながらラインアップを拡充し、幅広いユーザーから高い評価を獲得してきました。今回発表した新製品2機種を加え、シネマレンズのラインアップは合計41機種となります。用途や撮影シーンに応じて、ユーザーにとって快適な運用を実現するとともに、高画質で多彩な映像表現を求める映像制作のニーズに応えることで、映像表現領域の拡大に貢献します。

	EF マウント	PL マウント	RF マウント
FLEX ZOOM LENS	CN-E20-50mm T2.4 L F	CN-E20-50mm T2.4 L FP	
	CN-E45-135mm T2.4 L F	CN-E45-135mm T2.4 L FP	
	CN-E14-35mm T1.7 L S	CN-E14-35mm T1.7 L SP	
	CN-E31.5-95mm T1.7 L S	CN-E31.5-95mm T1.7 L SP	
PRIME LENS	CN-E14mm T3.1 L F	CN-E14mm T3.1 FP X <sup>※</sup>	CN-R14mm T3.1 L F
	CN-E20mm T1.5 L F	CN-E20mm T1.5 FP X <sup>※</sup>	CN-R20mm T1.5 L F
	CN-E24mm T1.5 L F	CN-E24mm T1.5 FP X <sup>※</sup>	CN-R24mm T1.5 L F
	CN-E35mm T1.5 L F	CN-E35mm T1.5 FP X <sup>※</sup>	CN-R35mm T1.5 L F
	CN-E50mm T1.3 L F	CN-E50mm T1.3 FP X <sup>※</sup>	CN-R50mm T1.3 L F
	CN-E85mm T1.3 L F	CN-E85mm T1.3 FP X <sup>※</sup>	CN-R85mm T1.3 L F
	CN-E135mm T2.2 L F	CN-E135mm T2.2 FP X <sup>※</sup>	CN-R135mm T2.2 L F
CINE-SERVO LENS	CN10×25 IAS S/E1	CN10×25 IAS S/P1	
	CN20×50 IAS H/E1	CN20×50 IAS H/P1	
	CN8×15 IAS S/E1	CN8×15 IAS S/P1	
	CN7×17 KAS S/E1	CN7×17 KAS S/P1	
		CN7×17 KAS T/P1	CN7×17 KAS T/R1
COMPACT-SERVO LENS	CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S		
	CN-E70-200mm T4.4 L IS KAS S		

※ 単焦点レンズシリーズ「Sumire Prime」。